

シード及び組合せ上の原則（令和6年度 改訂版）

静岡県高体連バレーボール専門部

◎静岡県高等学校総合体育大会バレーボール競技（令和6年度より）

1. 前年度新人大会の1位から4位チームを、第1シードから第4シードとする。なお当該4チームについては、地区予選には出場しない。
2. 第5シード以下のシードについては、各地区予選における順位でシードする。
3. 第5シードから第8シードに各地区の1位を入れる。
4. 「新人大会」において5位（全4チーム）となったチーム数の多い地区を上位シードとし、チーム数が同じ場合にはベスト8（全8チーム）における各地区の成績を考慮する。
5. 同地区の1位と2位は反対ゾーンに入れることを原則とする。
6. 第9シードから第32シードまでは予選上位から入れていき、同地区のチームが同じゾーンに偏らないようにする。ただし各地区の勢力分布を考慮し、シードの位置が変わる場合もある。なお各地区の勢力分布を考慮する際に、第1から第4シードの各チームについては考慮の対象としない。
7. 第1から第4シードのチームとの対戦を除き、1回戦で同地区チームが対戦しないようにする。また2回戦で同地区のベスト4のチームが対戦しないようにする。

◎全日本バレーボール高等学校選手権大会静岡県予選大会

1. 「高校総体」の1位～4位チームを第1～第4シードに入れる。
「高校総体」のベスト8のチームを第5～第8シードに抽選で入れる。
「高校総体」のベスト16のチームを第9～第16シードに抽選で入れる。
2. 第1～第8シードのチームはベスト32から出場とする。
3. 第9～第16シードのチームはベスト56からの出場とする。
4. 1回戦で同地区が対戦しないようにする。

◎静岡県高等学校新人体育大会バレーボール競技兼静岡県高等学校バレーボール選手権大会

1. シードは地区予選の順でシードする。ただし、全日本選手権全国大会に出場したチームが在籍する地区の順位については、全日本選手権全国大会に出場したチームを1位、地区予選1位チームを2位、予選2位チームを3位というように、1つずつ順位を繰り下げて考える。
2. 第1～第4シードに各地区の1位を入れる。
3. 「高校総体」の1位チーム地区の1位チームを第1シードとし、以下第4シードまで同様にシードする。（ただし2項を優先する）
4. 同地区の1位チームと2位チームは、反対ゾーンに入れることを原則とする。
5. 「高校総体」で第3及び第4シードの資格を有しても、2項により第3・第4シードに入らない場合は、第5及び第6シードに入れることを原則とするが、第7シードに入れる場合もある。
6. 第5～第8シードは、そのゾーンでシードされているチームの地区以外の地区の上位校を入れる。
7. シード順位が同位の場合は、「高校総体」でベスト8に入ったチームの多い地区を上位とする。それでも同位の場合は、「高校総体」の成績上位チームを有する地区を上位とする。
8. 第9～第32までは、予選上位から入れていき同地区のチームが同じゾーンに偏らないようにする。ただし、地区の勢力分布を考慮し、シードの位置が変わる場合もある。
9. 1回戦で同地区が対戦しないようにする。
10. 2回戦で同地区のベスト8が対戦しないようにする。

※詳細は、「新人県大会に関する確認事項」に記載する。

今回の変更のポイント

- ① 変更は静岡県高等学校総合体育大会（インターハイ県予選）に関してのみである。
- ② チームシード制を導入し、前年度新人大会のベスト4チームは地区予選を免除する。
- ③ 新人大会における1位から4位のチームを、第1シードから第4シードに入れる。
- ④ 第5～第32シードには、地区予選通過チームを予選結果順位に従ってシードする。
- ⑤ 第5～第8シードに各地区の1位チームを入れる。
- ⑥ 新人大会で5位（全4チーム）となったチーム数が多い地区を上位シードとするが、チーム数が同数の場合はベスト8における各地区の成績を考慮する。
- ⑦ 原則として1回戦で同地区チームが対戦しないようにするが、第1～第4シードのチームとの対戦に限り、1回戦で同地区チームが対戦する場合もある。
- ⑧ 2回戦で同地区のベスト4が対戦しないようにする。
- ⑨ 予選通過チーム数は各地区9チームを基本とし、開催地区には1チームを追加し、10チームとする。

以上